

## 将来ビジョン及び必要な取組・事業

提案主体名	豊田市、トヨタ自動車、デンソー、名古屋大学	※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入してください。
提案プロジェクト名	安心・安全・持続可能な次世代エネルギー・モビリティ都市	※同一主体で複数の提案をする際は別名称としてください。
都道府県名	愛知県	※複数の都道府県にわたる場合は「、」で区切って記入してください。
対象地域 市町村名	豊田市	※複数の市町村にわたる場合は「、」で区切って記入してください。 ※特定の地区を想定している場合は、それも合わせて記入してください。
① 関連する分野	環境（低炭素・エネルギー・交通） 超高齢化（医療・健康） その他（新たな産業）	※国際連携・国際化に関する事項は、分野ではないため、「その他」欄に記載しないでください。
② 将来ビジョン(環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標 (2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿))		※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。
<p>○本市は、「人が輝き 環境にやさしく 躍進するまち とよた」を掲げ、安心・安心のまちづくり、人材育成・多様な能力活用、都市と農山村の共生、ものづくり基盤強化、環境に配慮した快適な都市づくりに重点的に取り組んでいる</p> <p>○東海地震の脅威、世界同時不況による財政悪化、CO2排出量の増加、急速に進む高齢化、産業構造の硬直化等の課題が顕在化している</p> <p>○本市の強みは、「産業基盤」(自動車関連産業)、「森林」(市域の70%)、「交通」(ITS実証実験都市、EV・PHVタウン)、「民生」(市民との共働)、「都心」(中心市街地活性化計画認定都市)の5分野であり、この強みを生かし、「環境モデル都市」として、また「次世代エネルギー・社会システム実証地域」として政府支援を活用しながら、企業とのコンソーシアムを中心に「活力ある低炭素まちづくり」を加速している</p> <p>○しかし、喫緊の課題を克服し、来るべき超高齢化社会においても、質の高い市民生活を実現するためには、さらに低コストで高効率な社会システムの構築、知的生産性の高い産業構造への転換、高付加価値のモノ・情報・サービスの創出により、未来にわたって市民が希望を持ち続け、経済も成長し続ける社会の構築が必要である</p> <p>○本市の強み及び取組の蓄積に鑑みれば、この命題を解決しながら、世界に向けて、都市と市民が自立するに足るリソースとポテンシャルを有している</p> <p>○そこで、あらゆるインセンティブを集中展開し、民産学官の共働により、持続可能な都市モデルの構築を目指していく</p>		
<p>☆将来目標 2020年 ○エネルギーとモビリティを融合した新技術の実証・普及促進による環境先進都市の実現</p> <p>2030年 ○自立する生活・産業・都市経営基盤の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢化社会におけるQOLの高い市民生活：社会参加の機会拡充、労働力・知識・技術伝承、社会保障費の抑制</li> <li>・産業活性化と都市活力増進：就労確保・収入の安定化、国際販路・シェア拡大、地域経済の活性化</li> <li>・低炭素化と低リスク化：非常時でも安全安心な生活、BCP・CCPへの対応</li> </ul> <p>2050年 ○安心・安全・持続可能な次世代エネルギー・モビリティ都市の実現</p>		
<p>☆創出する価値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境価値：CO2・環境負荷の大幅削減</li> <li>○社会価値：生活・社会インフラの安定・自立、生涯現役</li> <li>○経済価値：雇用・財政安定、産業構造多様化、都市経営基盤の自立、年齢を超えた雇用・消費経済の創出</li> </ul>		
③ 将来ビジョン(②に記載した目標の実現のための取組の基本的な考え方)		※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。
<p>○人、モノなどあらゆるものの活動の基本となる「エネルギー」と「モビリティ」は、世界的課題であり、本市の強み</p> <p>○高度化が進む情報技術を活用し、<u>環境・エネルギーと交通分野</u>におけるイノベーションを核に、生活者の視点で、<u>超高齢化と産業振興(雇用)</u>を関連付けて取り組むことで、「暮らしの質の向上」と「経済成長」の両立を実現</p> <p>○スピードとオープンスタンスを重視し、内外の自治体・企業等をネットワーク化し、情報共有と迅速な実用化も狙う(被災地への早期展開も視野)</p>		
<p>☆中長期的に目指すべき姿(2020～30年)</p> <p>1. 超高齢社会におけるQOLの高い市民生活：<u>移動と暮らし</u>の質向上で、エイジレスに健康に、支えあえる社会を構築</p> <p>(1)低炭素・安全・快適な住環境 → バリアフリー・スマートハウスの普及 × 高齢者・障害者の見守り、クルマ × 蓄電・電力供給・情報端末</p> <p>(2)新たなモビリティによる行動支援 → パーソナルモビリティ × 公共交通 高齢者・障害者の移動を支援する安全なモビリティ(事故の低減) × 社会参加促進 「仕事も遊びも場所は現役」</p> <p>(3)新たな健康長寿サービスの提供 → 家・クルマでの健康・医療情報の収集・提供(乗れば乗るほど健康に) × 健康・医療情報の統合による予防医療の展開</p> <p>2. 防災化(災害に強いまち)：<u>エネルギー</u>を最大限活用し、持続可能な社会インフラを構築</p> <p>(1)災害に強い安定したエネルギー・インフラの構築と需給マネジメント → 再生可能エネルギー(PV・水素・小水力) × クルマ × コミュニティ</p> <p>(2)BCP・CCPの確実な実施 → 再生可能エネルギー × 非常対応システム × コミュニティ</p> <p>3. 低炭素化：<u>エネルギーと技術</u>の融合で、CO2を大幅削減</p> <p>(1)都市の低炭素化・安全性の向上 → 再生可能エネルギー × 市街地・宅地整備・既存団地のリノベーション</p> <p>4. <u>産業活性化と都市活力増進</u>：<u>技術と人の力</u>で、低コストで高効率な産業構造・労働市場を創出</p> <p>(1)産業構造の転換誘導と雇用の確保</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①環境・エネルギー分野の新産業の立地誘導 → 研究・開発用地確保 × 雇用創出・人材確保</li> <li>②自動車関連中小企業の業態転換誘導 → クルマ・ものづくり × 介護・生活支援</li> <li>③観光・交流産業育成(千客万来) → 環境・エネルギーシステム × 観光・交流</li> </ol> <p>(2)新農業モデルと地産地消の拡大(安全安心な食料確保)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①企業・異業種参入による産業活性化 → 耕作放棄地 × 農ライフ創生センター × 生産と流通の効率化・付加価値化</li> </ol>		

**③ 将来ビジョン(②に記載した目標の実現のための取組の基本的な考え方)**

番号	取組・事業の名称 ※異なる名称を付けてください。	取組・事業の概要 ※500文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。	取組・事業の期間	実施主体・運営主体 ※複数主体の連名の場合は「」で区切って記入するとともに、それぞれの役割を( )内に記入してください。	価値、分野の種類	国の支援の必要性 ※必要性がある場合、「○」を記入してください。
(1)	家庭・コミュニティ全体でのエネルギー有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創・省・蓄エネ機器をHEMS/EDMSで制御、太陽光電力を家庭内及びコミュニティ全体で最大限利用</li> <li>・移動先や街レベルで太陽光電力や熱、未利用エネルギー(小水力等)を面的利用</li> <li>・エコポイント等による生活者行動支援、エネルギーの最適利用</li> </ul>	平成23年4月～	市(フィールド提供、税財政・制度支援等を検討)、企業(研究・開発・実証等を検討)、大学(研究・開発・実証等を検討)、地域団体等(協力・支援等を検討)	環境価値(低炭素、循環、水・大気環境)、経済価値(高度情報集積)、社会価値(安全安心)	○
(2)	次世代車交通システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TDMSによる多様な交通手段の提供(次世代車・公共交通利用促進等)により、交通の低炭素化を実現。</li> <li>・併せてITSの活用により交通システムの利便性向上。</li> <li>・次世代交通端末アイテムの導入(小型モビリティのシェアリングシステム・BRT等)</li> <li>・EV・PHV・FCの充電インフラの整備</li> </ul>	平成23年4月～	市(フィールド提供、税財政・制度支援等を検討)、企業(研究・開発・実証等を検討)、大学(研究・開発・実証等を検討)、地域団体等(協力・支援等を検討)	環境価値(低炭素、循環、水・大気環境)、経済価値(高度情報集積)、社会価値(安全安心)	○
(3)	健康・長寿のサポートシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、家庭内、移動空間での医療用・健康生体データ計測と個人データ集中管理センターの運用事業</li> <li>・健診データ及び体質診断(SNP)、食事データ、運動データとを組み合わせた生活習慣病(メタボ・慢性腎疾患)の予防</li> <li>・個人の健康と医療情報の統合、個人に最適な早期医療の実現</li> <li>・高齢化による運転能力(認知・判断・操作)の低下をバックアップし、事故を回避する自動運転を実現するモビリティの実現</li> </ul>	平成23年4月～	企業(研究・開発・実証等を検討)、大学(研究・開発・実証等を検討)、地域団体等(協力等を検討)、市(協力等を検討)	環境価値(低炭素)、経済価値(高度情報集積)、社会価値(安全安心、エイジフリー)	○
(4)	次世代産業振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低炭素社会モデル地区を活用した技術の見える化・マッチング</li> <li>・新産業プランに基づく中小企業振興</li> <li>・耕作放棄地の活用や農業の担い手育成</li> </ul>	平成23年4月～	市(フィールド提供、税財政・制度支援等を検討)、企業(研究・開発・実証等を検討)、大学(研究・開発・実証等を検討)、地域団体等(協力・支援等を検討)	環境価値(低炭素、循環、生物多様性、水・大気環境)、経済価値(高度情報集積、ナレッジエコノミー、生涯現役)、社会価値(安全安心、エイジフリー)	○

**⑤ ④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容**

▼家庭・コミュニティ全体でのエネルギー利用最適化実現  
 次世代自動車の蓄電池を有効活用や、太陽光パネル・省エネ家電等家庭の各機器をHEMSにより連携させることで、家庭内・コミュニティ内のエネルギー利用効率化を実現  
 併せて、エコポイント等により消費者の低炭素行動を支援することで、無理なく生活の質の高いエコライフを実現

▼低炭素と社会コスト最小化及び市民のQOL確保を実現する交通システムの構築  
 ▼日常的に健康情報を取得・蓄積することで、ドライバーの健康状態に起因する事故のゼロ化や健康増進への貢献

▼大企業のもつ先進技術と地域の有するニッチな技術力との組み合わせや、異業種連携等を推進することにより、新たな先進技術開発及び国際展開、産業構造の転換を推進

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。